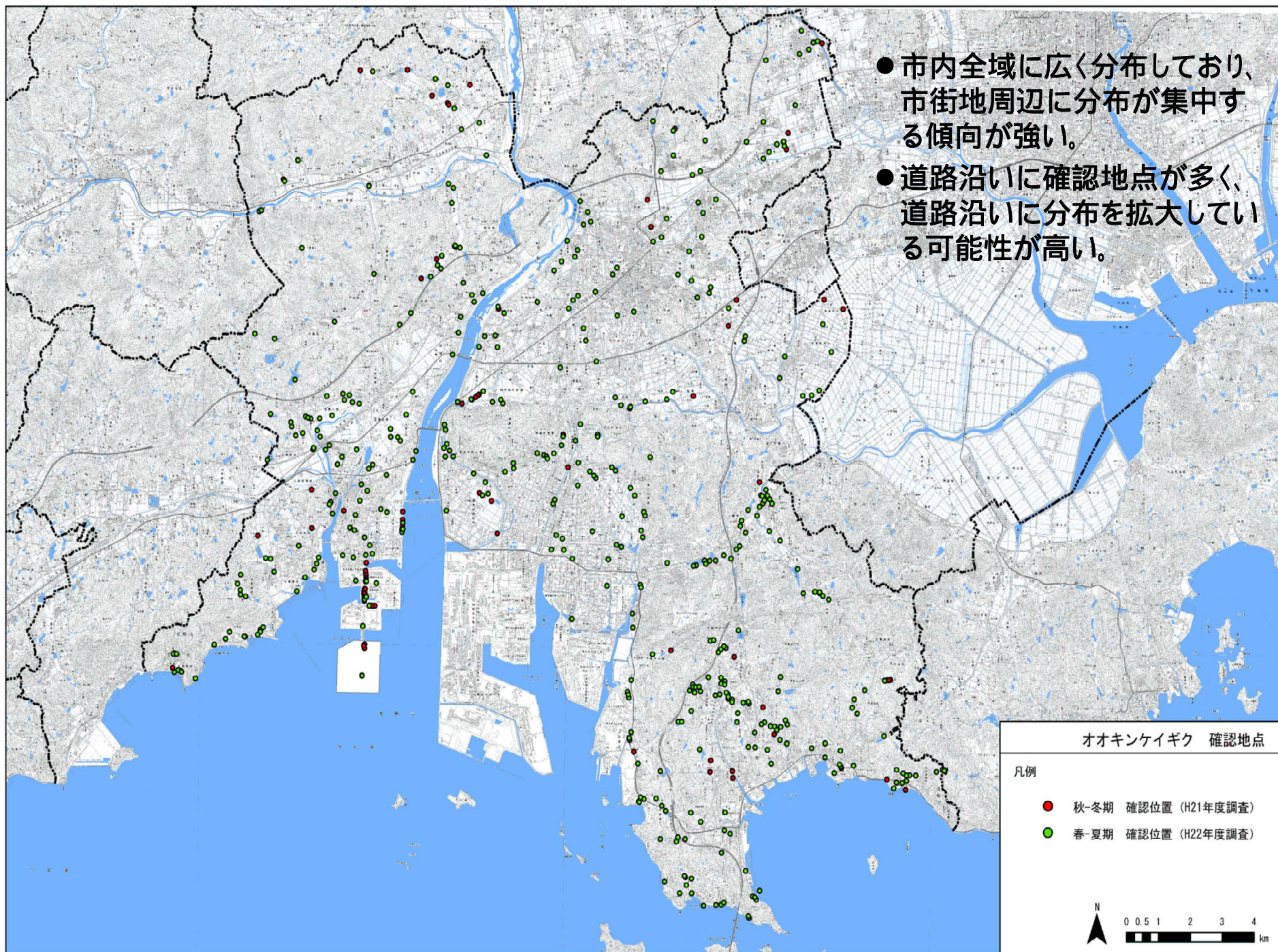
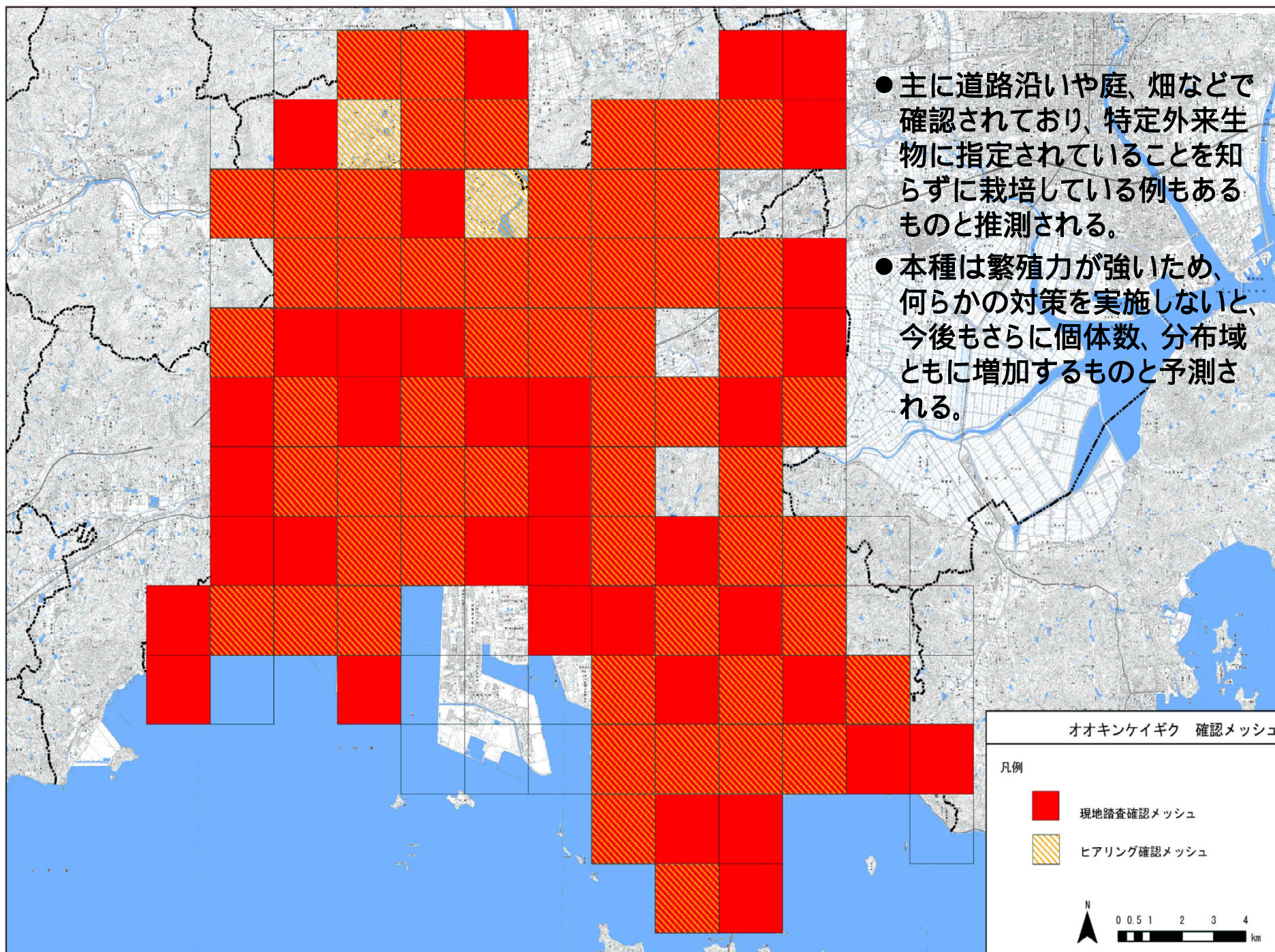


< オオキンケイギク >

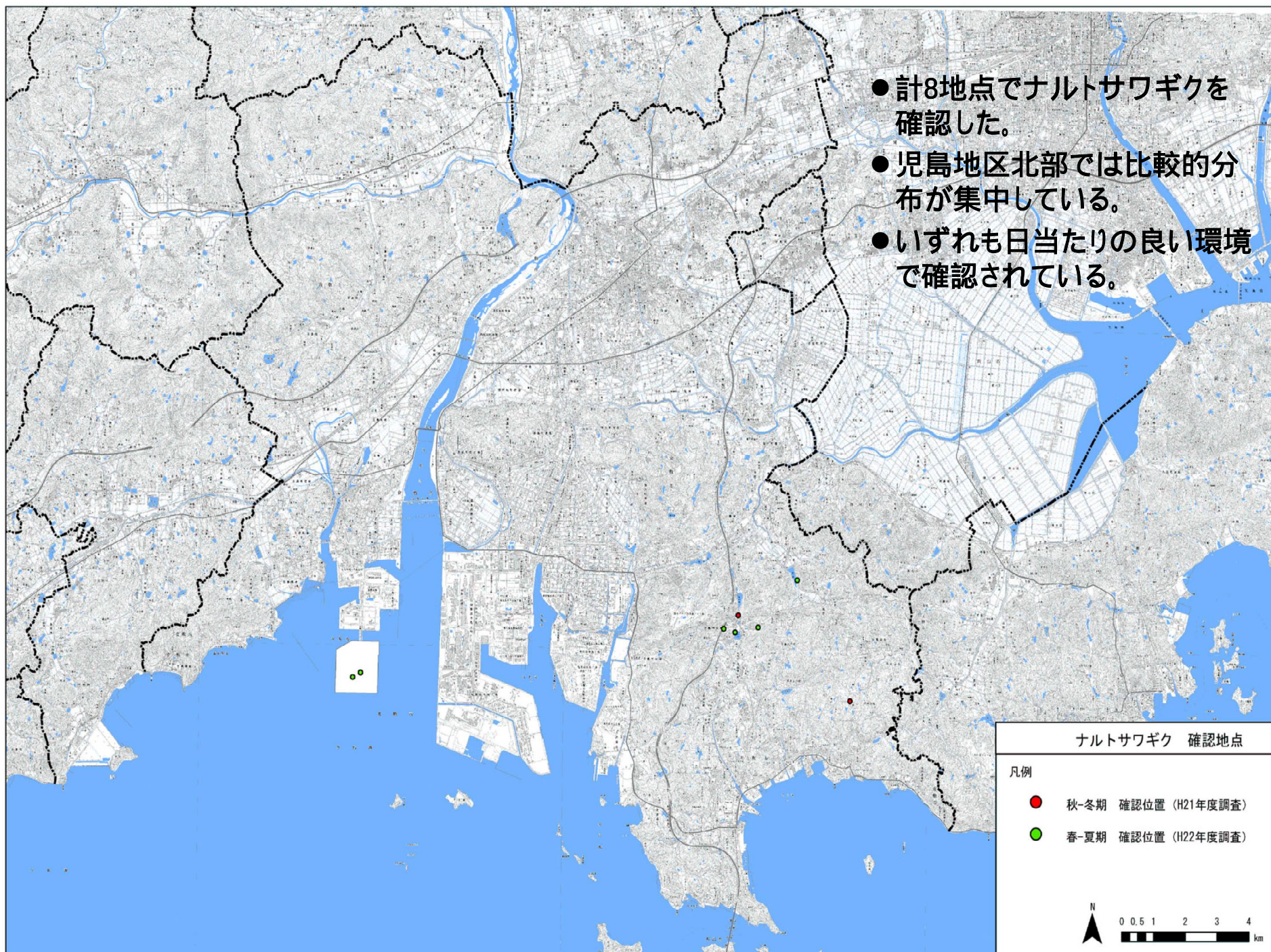
- 強靱な性質のため全国的に野生化し、河川敷や道路にしばしば大群落をつくる。
- 本種の繁茂により、河川敷固有の植物が減少または消失しており、在来の生態系への影響が懸念される。





<ナルトサワギク>

- ・ 急激に分布を拡大するため在来種との競合が懸念される。
- ・ アルカロイドを含むため、家畜を含む草食動物に対して有害である。



- 確認地点は9メッシュにとどまり、現状では、個体数も少なく、分布域も局所的であると考えられる。
- 児島地区北部などでは分布を広げつつある傾向が見られることから、早期に対策を実施しなければ、分布域が拡大していく危険性は高いものと考えられる。

ナルトサワギク 確認メッシュ

凡例

- 現地踏査確認メッシュ
- ▨ ヒアリング確認メッシュ



< ブラジルチドメグサ >

- 各地の池沼や河川で大繁茂しており、水面を覆い尽くすので水生生物への影響が大きい。
- 貧栄養の水系でも生育できるので、希少種の生育を脅かす可能性が高い。

●茶屋町の倉敷川近くの水路1
地点で確認。

ブラジルチドメグサ 確認地点

凡例

- 秋-冬期 確認位置 (H21年度調査)
- 春-夏期 確認位置 (H22年度調査)



